

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 18日から19日は、前線が本州付近を南下する。高気圧が中国東北区から北日本付近へ移動する。
- 20日は、高気圧が日本の東へ移動する。気圧の谷が日本付近へ進む。
- 21日から22日は、気圧の谷が日本の東へ進み、次の気圧の谷が日本付近へ進む。

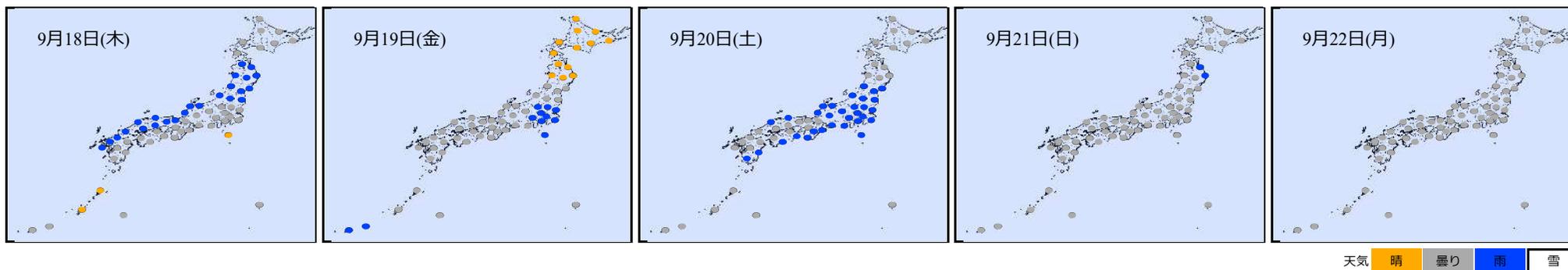
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 18日は東日本日本海側を中心に前線や湿った空気の影響で大雨となり、前線の活動の程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。
- 東日本と沖縄・奄美では気温が高くなり、最高気温が35度以上となる所もある。熱中症など健康管理に留意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

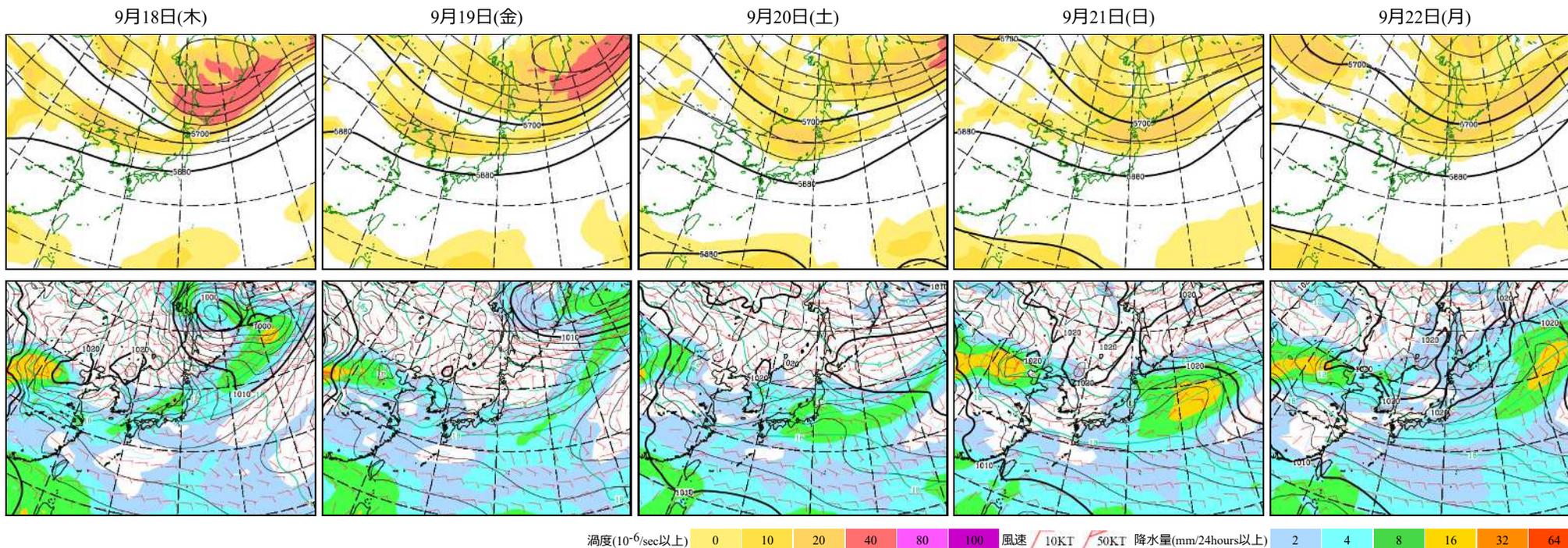
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

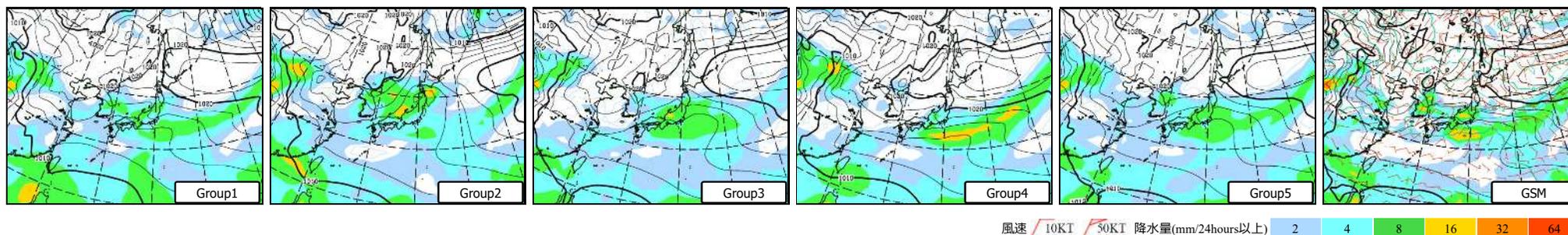


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多いが、19日は晴れる所が多い。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、19日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月20日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、20日から21日は日本海から北日本を通過するトラフが深くなり、日本付近を通過する気圧の谷が明瞭になったことに対応して、北日本と東日本日本海側周辺で降水確率が大きくなった。
- 各モデルとも、20日にトラフが日本海へ進む予想はおおむね揃ってきた。21日から22日にかけても、断続的にトラフが日本海から北日本付近へ進む予想についてもおおむね揃っている。
- スプレッドは、期間を通して比較的小さいが、期間の終わりは5700mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。